

日本の経済 ～過去・現在・未来～

高津高校 LCⅡ 社会 A 班

(真田道男、長嶺秀平

西原広大海、森田成美)

1、はじめに

私たちは、各時代をささえてきた企業などを調べ、今後の日本経済を発展向上させていくことができるのはどのような企業であるのかを考えてみました。

2、財閥

(1) 財閥の定義

財閥とは、もともとその時代のメディアが勝手に作った言葉で、単に巨大な同族企業集団を指すものでした。しかし、財閥研究で有名な同志社大学の名誉教授安岡重明氏の定義によると、「家族または同族によって、出資された親会社（持株会社）が中核となり、親会社が支配している諸企業（子会社）に多種の産業を経営させている企業集団」ということになります。

(2) 三大財閥

有名なものでは三大財閥と呼ばれた三井・三菱・住友などがあげられます。これらの財閥に共通しているのは、同族によって代表の座が世襲され、多大な財力により、様々な分野に多角化していったということです。

・三大財閥のまとめ

	得意分野	戦後の企業、傘下企業
三井財閥	銀行、鉱山（三池炭坑）	トヨタ、東芝、三井住友銀行
三菱財閥	重化学工業	三菱自動車、三菱商事、三菱電気
住友財閥	銀行、鉱山（別子銅山）	住友生命保険、三井住友銀行

(3) 三井財閥

江戸時代に三井高利が呉服店の経営で得た資金をもとに、三井銀行を設立したのが始まりでした。その後三井物産や三池炭坑などをはじめとして、多様な分野に進出していくとともに、政界に進出するものも現れました。

戦前は、財閥同士で分野が被ることが比較的少なかったこともあり、それぞれの業種で財閥による独占化・寡占化の進行もみられました。また、戦後の「財閥解体」後も三井住友銀行など財閥の「残党」は依然として大きな力を持ち続けていきました。

3、現代の大企業

(1) イオン

イオンは大型ショッピングモールとして知られ、戦前の財閥と違い、多角化はしていないが、昨今急速に力をつけてきている同族企業です。

1758年創設以来、ほとんどが同族で世襲されてきました。これほど長い間、同族で支えられて発展してきた企業は少ないです。

(2) セブン&アイ・ホールディングス

2005年にセブンイレブンなど3つの会社からの株式移転によって設立された持株会社で、現在ではそごう西武百貨店をも子会社化するほどの大企業です。

百貨店企業に進出したことにより、セブンはコンビニエンスストア、スーパーマーケット、デパートという既存業態の枠を超えた日本最大で世界でも屈指の巨大総合流通グループとなりました。

(3) 東急電鉄

昔からある同族巨大企業で様々な分野で多角経営を行っています。

現在若者に人気の SHIBUYA 109 も東急電鉄の子会社でエンターテインメントの分野で、大いに力を発揮しています。

4、これからの日本の経済形態

過去、現在の日本経済や企業いろいろと調べてみて、私たちがたどり着いた結論は、「これからの日本におけるニーズをいち早く予想、また自らが新しい流行などを作っていく、需要にあったサービスを提供できる企業である」というものです。

東急電鉄はこれからの中心的な戦略プランの一つとして、渋谷からデジタル技術などを用いた日本の最先端文化の発信を行い世界の人々を渋谷に引きつけようとしています。

この先さらにデジタル技術の実用化が進んでくると予想される中で IT 企業やそれと提携したり、それを子会社化したりするような企業が日本経済の中心を支えていくのではないかと思います。

5、参考文献ならびに参考 Web ページ

安岡重明編『日本経営史講座3 日本の財閥』日本経済新聞社、1976年。

池上寛『近代日本の経済発展と総合財閥についての一考察』（『国際協力論集』第5巻第2号所収）